

日本株急落の背景と今後の見通しは？

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 日経平均が一時1,100円超下落

11日の東京株式市場で、日経平均株価が前週末比で一時的に1,100円を超える下げ幅となるなど、このところ堅調に推移してきた日本株が急落しました（右上図）。背景には、①日経平均株価の年初からの上昇幅が前週末までに6,000円超となっており、短期的な過熱感が意識されたこと、②日銀の金融政策の正常化の思惑から対米ドルで円高が進行したこと（同図）、③米半導体株の調整を受けて日本のハイテク株にも利益確定売りが膨らんだこと、などがあるとみられます。

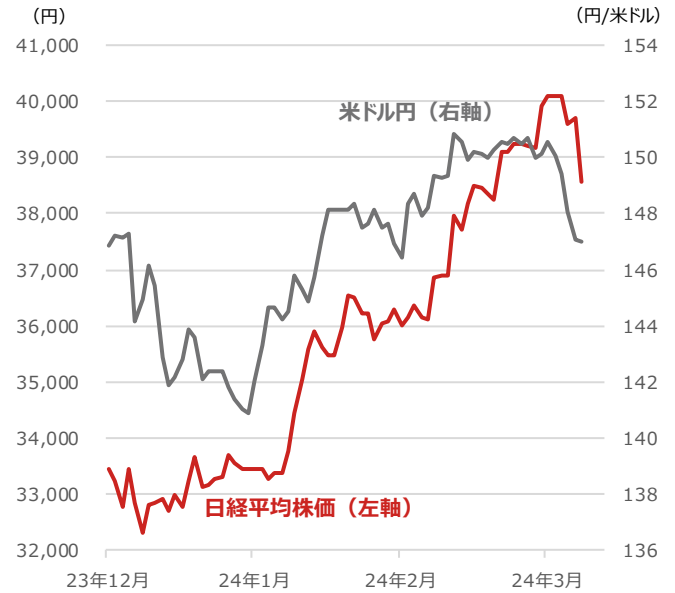
ただ、対米ドルでの円高余地は限定的と考えられることや、米半導体株の影響を受けやすい台湾や韓国の株式市場の11日の下げが小幅にとどまっていることなどを考えると、短期的な波乱は続いたとしても、影響自体は一時的と考えられます。

ポイント② 日米株の業績拡大シナリオは不変

米ドル円については、FRB（米連邦準備制度理事会）が年内に利下げに動くとの見方から米ドル安・円高となりやすい地合いといえます。とはいえ、市場では現時点でFRBの年内の利下げ幅は1%程度とみられており、主要通貨の中では高金利である米ドルに資金が向かいやすい環境は続くと考えられます。また、日銀による政策修正が非常に緩やかなペースで進むことが見込まれ、日本の実質金利が上がりづらいくとも、円高圧力の緩衝材になるとみられます。

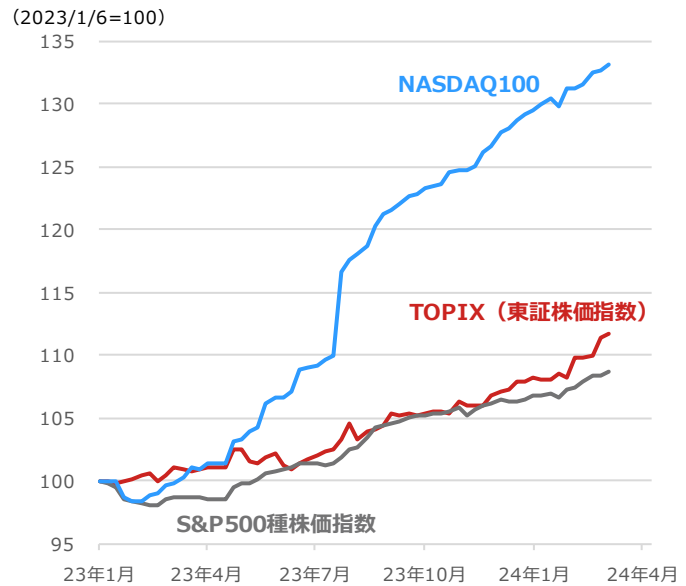
株価の長期的なトレンドをみる上で重要な12か月先予想EPSは、日米株ともに拡大基調が続いています（右下図）。日本株や米ハイテク株の業績見通しの明るさが不変であることを考えると、日本株の調整は短期的なものにとどまりそうです。

日経平均株価と米ドル円



期間：2023年12月1日～2024年3月11日13時30分時点、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

TOPIX・S&P500種株価指数・NASDAQ100の12か月先予想EPS（1株当たり利益）



期間：2023年1月6日～2024年3月8日、週次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。